

連続連携講座報告

「群馬県共同募金会 新たなしくみ・つながり作り事業」の助成を受けて実施いたしました。

「外国語を母語とする人の健康を守るネットワーク連携講座」（7月～10月）を以下の通り報告します。カリキュラムは平成27年度講座カリキュラムをご参照下さい。講師先生の資料をご希望の方は事務局までご連絡ください。

行政、病院はじめ医療・福祉関係の皆様、外国人支援団体、海外協力団体、大学、医療通訳関連団体などから延べ68名の皆様にご参加いただきました。

医師、看護師、SW、保健師、行政書士、大学教授、学生、JICA OB、語学学校講師、日本語教師、通訳ボランティア、外国人支援者など普段お会いすることのできない皆様と講座を通じお知り合いになれたことを今後の活動に生かしたいと思います。

現状の医療通訳の場は、通訳の場が終わると振り返りもなく過ぎてしまいます。

医療関係の皆様、患者さん、通訳には少なからず課題が残る場合があります。よりよい制度につなげるには、相互の信頼関係の中でのフィードバックが必要です。

講座でご講義いただきました内容、ご提供いただきました資料、頂いたご意見は、今後派遣・翻訳などの活動の中で生かし、連携の中で振り返りながら、よりよい体制作りにつなげたいと思います。

初めての試みで、幅広い皆様にご参加いただいたため焦点を絞ることができず、皆様にわかり辛い内容もあったことと思います。貴重なお時間に皆様に必要な内容をご提供できていたかという反省が残りました。これからも皆様からのご意見をお待ちいたしております。

外国の方の健康を守るために多くの関係者の方が連携していただけますよう、今後とも皆様のご協力をお願い致します。

医療通訳として活動を考えている皆さんには今後、医学、語学をはじめ医療通訳として必要な講座にご参加いただき、今後の会の活動にご協力をお願い致します。

友達、友人としてお手伝いをするのは大切ですが、医療現場を交通整理しながら医療通訳として役割を果たすには医学・言語・文化等を謙虚に学ぶという姿勢を続ける必要があります。私自身の自戒です。

大変なこともあります、皆さんで力を合わせて学び、必要とされる場にお役に立てることを目指しましょう。嬉しいことも沢山経験できるはずですよ。

①第1回 7/26 講座

19名のご参加をいただきまして楽しく講座を開くことができました。

今回は群馬県医務課、人権男女・多文化共生課から講師をお願いし、また山口先生、吉田さんには群馬県の外国人の状況、日本で生活して感じることについてなど丁寧にお話を伺うことができ、非常に中身の濃いものであったと思います。

また午後の講師の村松先生には大変多くの準備をしていただき、当日の参加の方に合わせた内容をその場でアレンジしていただくなど本当に贅沢な内容で講義を進めていただきました。

デモの場面で、日頃通訳として迷うことを沢山質問をさせていただき、村松先生のご経験をもとに解説をいただけ有効な時間を過ごすことができたと思います。

医療通訳としてのお立場から全国規模で発言を続けて下さる村松先生のご活動が私たちの医療通訳としての環境を大きく育てて下さっていることを忘れず、私たちも日々研鑽を続けなければいけないと思います。

②第2回 8/23

18名の皆様のご参加をいただきました。

今回は病院から医療関係の皆様、大学教育に関係される皆様、行政書士、看護を学ばれる方からもご参加をいただきました。

「外国語を母語とする人の健康を守るネットワーク連携」という講座の趣旨をご理解いただき、幅広いご参加をいただけたことを嬉しく思います。

午前の部：

伊勢崎市民病院看護副部長 木村氏、
群馬県医療ソーシャルワーカー協会、県立がんセンターの小池氏
群馬県精神保健福祉士会、あかつきの村の櫻井氏
を講師としてお招きしました

日頃全く知ることができない外国語を母語とする来院・入院患者さん、ベトナムから難民として来日・在住される方のご様子を伺い、医療通訳としてのみならず、外国語を母語とする方を支援するということがどういうことなのか、深く考える機会となりました。

実際に医療現場・外国語を母語とする方の支援に携わる看護師様、SWの皆様から伺うお話から「医療の現場の皆さんも、外国語を母語とする方を支援するSWの皆さんも困っておられる」ということを確認できました。

「通訳は患者さんが連れてきてほしい」「会社の人と一緒に来るから大丈夫」というどこでもよく聞かれる言葉の後ろには、患者さん自身の気持ちが置き去りにされていること、そして現場ではそれでは解決できず、診療の過程で影響が出る場面も少なからずあるということを知ることができました。

患者さんが安心して治療を受け、日本の社会で生活ができるよう、医療関係の皆様が安心して本来の業務を遂行できるよう「言語・医学・文化」を勉強した中立的立場の医療通訳が必要であることを再認識できました。

講師の先生方からは、非常に幅広いご指摘とご提案をいただきました。11月のシンポジウムで改めて確認をさせていただき、今後の会の活動に生かしていきたいと思えます。

午後の部：

高崎の英語学校 MAPLE ENGLISH の TERRY BERTRAM 氏

多文化共生医療サービス研究会 RASK 三木紅虹 氏

を講師としてお招きしました。

MIC かながわの 岩元陽子 氏 はご厚意でご参加いただきました。

「カナダ・中国の医療事情」「日本の医療現場で感じること」「日本の医療通訳事情」「医療通訳の学び方」「ロールプレイから見る医療通訳の在り方」と盛り沢山の内容でした。

外国語を母語とする方への対応に際しては、その方の国の文化、医療事情などを理解していると誤解からくるトラブルを避けることができますが、なかなかそこまで学ぶことは難しいものです。

趣旨を理解いただき、言語・医学・文化講座の講師をしてくださる方、勉強をしながら医療通訳としても活動したいという方、医療関係者の方で言語も勉強したいという方・・・皆さんで継続して学び合える環境づくりを進めたいと思えます。

ご紹介いただいた TERRY さんの医学英語のクラスも魅力的ですね。会としても TERRY さんを講師として英語の勉強会を開けたらいいなあ・・・と講義を伺いながら思いました。

MIC かながわの岩元先生や三木先生の「確認をしながらしっかりと進められる通訳の技術」「医師と患者の関係にも配慮されるなど、実践を重ねて身に着けられた現場でのご対応」に、これから私たちが学ばべき内容を確認させていただきました。通訳は黒子、一つの機械であることが望ましいといわれますが、人間であるからこそできる配慮を実践の中で身に着けたいと思えます。

③第3回 9/27

9月講座「外国人のお産と子ども」報告

午前の部：

「妊娠・子育て中に利用できる制度と相談窓口」「妊婦健康診査、乳幼児健康診査」「日本での出産で感じたこと」「外国人母子保健の課題と解決方法」

群馬県保健予防課 生方様、大泉町健康づくり課 総括保健師 竹村様、坂本様、聖路加国際大学 五十嵐先生からご講義いただきました。

健康支援センター、小児救急電話相談、ファミリーサポートなど県・市町村保健センター・医療機関が提供している制度、母子健康手帳の使い方（日本語版・外国語版）、健診の様子、利用できるウェブサイト、日本での出産・育児で感じた感想、外国人母子保健での課題（言語・経済・文化・医療制度）などについて詳細なお話をいただきました。

行政と病院の連携、日本語版外国語版母子健康手帳の違い、情報の普及、文化の違いの際の考え方などについての意見交換も行いました。

知らない制度が沢山ありました。公的な意味を持つのは日本語の母子手帳であること、外国語版がまだ普及していない現状も伺いました。

五十嵐先生からはRASCで作成された「ママとあかちゃんのサポートシリーズ 日本でくらす外国人のみなさんへ」の外国語版も含めた資料や被災地の外国人支援のために作られた「レディのための防災拭い」もお持ちいただき、思いを形にすることを学びました。

多くの制度がある中で、それを困っている方に生かすための一つの窓口に医療通訳はいると思います。

行政の皆様、医療関係の皆様、保健師様、ソーシャルワーカーの皆様、支援団体の皆様などとの連携の中で、制度を理解しながら困っている方につなぐことができるよう、共に顔を合わせながら学び、つながる必要を感じました。

「言語・経済・文化・制度」の様々な違い・課題がある際、目指すべきは、外国語を母語とする方の精神的・身体的健康・・・という五十嵐先生の言葉に、複雑な事例に迷うことがある中で、判断の軸にした考え方であると思いました。

また、言葉や医学の勉強もさることながら、大切なのは伝えようとする事とその態度というお話にも・・・その通りであると思いました。

講座の中で情報提供いただいた制度の中で、今後、会は何ができるのか、今後とも皆様との連携の中で「思いを形にして」行きたいと思います。

午後の部：

i 講義「小児科領域の基礎知識」

井上こどもクリニックの井上佳也院長先生にご講義いただきました。沢山のスライドをご準備いただき「胎児から新生児への循環の変化」「新生児、乳児、幼児の身体的特徴」「免疫能について」「健診」「主要な疾患について」「知りたいことお願いしたいこと」など毎日の診療の中から先生が感じておられることもユーモアも交えご講義いただきました。

医学を学ばない私どもの多くの質問にも快くお答えいただき、大変贅沢なお時間をいただきました。

医療の現場に医療通訳が入ることについては、費用・時間的制約・医学及び言語面での内容の正確性・文化理解・社会資源への橋渡しなど多くの課題があります。

患者さんの意見と同様に、医療関係の皆様からの率直なご意見を伺い、これらの課題を一つ一つ解決することが必要です。制度の普及はそこから始まると思います。

講座の中で先生から伺った率直なご意見は、医療通訳として診療場面での冷静な情報整理についての課題も見つけることができました。医学・語学・文化等への理解もですが、診療の場での臨機応変な的確な対応が大切です。

医療関係の皆様は、医療通訳の場の提供や育成などにご理解をいただけることを心から望みます。

ii ロールプレイ

英語、ポルトガル語、スペイン語、インドネシア語グループに分かれ、井上先生にお医者様役をお引き受けいただき、小児科のロールプレイをしました。

第1回目の言語グループ勉強会でした。

お医者様にロールプレイに入ってくださいという、大変貴重な機会でした。

当日配布の資料で通訳役・患者役をしていただきました。

実際に経験をされて井上先生、皆さんからの感想も伺いました。

今後は、事前の資料の提供・事前学習のお願いをしたうえで通訳役は資料なしでロールプレイをしてい

ただくようになります。

医療通訳を目指す方、医療職などで言語面でも支援をしたい皆さん、立場の違いはありますが、よりよい診療場面を目指して、医学・言語などお互いに協力しあいながら学び合う、言語グループ勉強会の充実を図りましょう。

ご講義をいただきました皆様のご厚意を大切に、ともに学び合いながら医療通訳としてしっかりその役割を果たすことができるよう協力しあいましょう。

④第4回 10/18

○テーマ「世界の医療文化、日本の医療文化」

i 「ところ変われば医療も変わる」群馬大学 森淑江教授

- ・海外の医療の場で驚いたこと
- ・日本で外国人患者とのかかわりで驚いたこと
- ・日本で外国人患者が戸惑うこと
- ・文化その他の要因により影響を受ける保険医療
- ・途上国の医療システム・外国人患者に出会ったら

先生がかかわられた途上国でのご経験などをもとにスライドを交えご講義いただきました。

それぞれの国の医療文化を土台に来日している外国の方が日本の病院で何に戸惑い、何に安心し、何に不満を感じるのか、日本の診療風景を当たり前と感じる者には前もって知っておきたいことです。文化を学ぶことの大切さを医療通訳者は知っておかなければならないと思います。

ii 「EPA 来日看護師のお話」

群馬県済生会前橋病院 小板橋氏 アイリッシュ氏

小板橋氏からはフィリピンからの EPA 来日看護師の病院としての受け入れ体制整備の様子を伺い、アイリッシュ氏からはご自身が作成されたスライドを見ながらアラビアでのお仕事、EPA 来日看護師としての経緯、日本での活動の様子、病院での仕事などについてお話を伺いました。

看護師としての専門知識の上に言語を懸命に学び文化の違いを理解しながら仕事に取り組むアイリッシュさんの真摯な姿勢に学ぶところが多くありました。

現場の一つ一つの積み重ねが大切ですね。

沢山学ぶことのあった講義でしたが、外国の方には医療費を始めに明確に説明することが大切であるという言葉が何回も出てきました。

私たちは保険診療に慣れていますが、外国の方が病院でまず心配することだということを認識する必要があると思いました。

○午後

i 交流

- ・皆さんにとっての外国文化・外国語との接点について自己紹介。
- ・医療通訳の普及とこれからの活動について、希少言語など医療通訳ができる方が必要であり、ともに学ぶ場を作りながら、必要な際に協力をいただくことをお願いしました。
- ・医療職の方など多文化についての研究会を開いておられる方もあり、医療の現場での医療通訳の在り方などについて今後とも意見交換などの機会を持っていただきたいことをお願いしました。
- ・お互いに顔を合わせて交流することで、必要な時につながるができるよう、お願いしました。

医療通訳の立場では、このような場を持つことは殆どできません。皆様からお時間を頂戴し、様々な観点からお話をさせていただき本当に有難うございました。

ii 英語講座 デモ

MAPLE LEAF 英語学校のテリーさんに 20 分の英語講座のデモをしていただきました。